

令和3年度 大阪府立牧野高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

日時 令和3年7月9日(金) 15:30~16:30

場所 大阪府立牧野高等学校 校長室

出席者(敬称略)

協議会委員 松宮 新吾(会長)、福原 哲晃、尾崎 順子、田中 博
正田 洋子、
(欠席)有堀 正彦(副会長)

学校長 日笠 賢

事務局 田中 眞、石田 暁、大塚 正宣、中務 正和

1、会長挨拶

新型コロナウイルス感染症の対応で、2年近く教育現場は混乱対応している。2022年度からは新しい学習指導要領が導入されるという大きな教育課程の転換期を迎える。昨年度は大学入学共通テストが導入され、生徒が身に付ける能力やスキルなどについて先生方が工夫しながら対応している。教育の質の担保が重要な課題として取り組まれていると認識している。学校行事においては生徒の経験にとって残念な状況は続いているが、今の状況をどのように教育として乗り切っていくか、新しい社会の枠組みの中で一人ひとりが力強く生きていけるような教育をされていると理解している。本日は令和3年度の教育計画のご承認をお願いしたい。感染症対策上、大きな声で発言することも憚れるが、短時間で委員の皆さまから忌憚のないご意見を頂戴し、事務局から最新の教育課題やデータなどを提示していただき実りのある会にしたい。

2、校長挨拶

暑い中お越しいただきありがとうございます。現状を説明させていただきながら、様々なご意見をいただき、学校運営に活かしていきたい。

3、令和2年度学校経営計画及び学校評価について・・・学校長より説明

昨年度の2月の学校運営協議会で皆様に原案をご覧いただいたものから、数字が埋まっていなかったところに数字が入っています。「非常によくできた」という◎の箇所が9つで、○が5つ、△が3つになっている。概略を申し上げますと「確かな学力の育成」で言うと生徒の「予習復習が出来ている」や教員の研修の充実で生徒の授業評価があがったところ。特に数値が上がったのが「ICTの活用」の部分。電子黒板が設置される前は5割台だったものが、導入後8割台となり、昨年度は9割台になった。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、昨年度は体育祭、文化祭が中止になったが、両方の行事を兼ねた「牧高フェス 2020」を実施したことで生徒の学校に対する満足度は下がらなかった。進学については現役の関関同立の合格者と進学者が1,4倍に増え、国公立が減った。それに産近甲龍と人気3女子大と合わせ11の大学に現役の6割の生徒が進学する状況になり、医療看護系を含め概ね多くの生徒は希望の進路がかなえられたと感じている。

- 委員・・・電子黒板は全教室に設置され、教員は皆さん活用しているのか。
- 校長・・・3年前に18教室を教育庁の学校経営推進費で設置。その時にPTAから支援を受け、全HR教室と理科教室合わせ32教室に設置。現在は特別教室を含め、35教室に設置している。若手の先生を中心に教員経験の豊富な先生も含めて研修なども行い9割以上の先生が活用している。
- 委員・・・パッケージ研修にある、ウェアブルカメラとはどのように活用されたのか。
- 校長・・・授業改善にあたり、生徒の授業評価の高い先生にカメラを装着して動画を撮り編集してコメントを入れてもらい、当該教員の目線の動きにより授業で意図したことを確認する等、研究授業で他の教員と共有して話し合いをするような研修を行った。
- 会長・・・小中学校ではGIGAネットでBIGPADを使用しているが、高校はまだ活用されていない中で、牧野高校は環境が進んでいる。ウェアブルカメラの活用も対話的に授業ができていないかの確認に良い。講義式になると教員の目線が動かない傾向になる。「再生刺激法」で事後確認が出来、授業改善に効果的な取り組みである。教育の内容的な充実が見られた。

4、令和3年度学校経営計画について・・・学校長より説明

前年度から大きく「コロナウイルスがある中での運営」を意識して書き換えた。また、国際化を踏まえ「グローバル人材の育成」を入れていたが、コロナの影響で外部との接触が難しいことから「オンライン授業」「オンデマンド授業」「GIGAスクール構想」への対応に変更した。教員はカウンセリングマインドを持って生徒に寄り添っていく指導に変更していくことと、「働き方改革」では部活動指導時間の見直しを行う。

- 会長・・・昨年度から変更されたところは大胆に変更されている。「選択と集中をせざるを得ない」姿勢が色濃く出ている。計画の中に「コロナ」の文言が19回、「ICT」「GIGA」が17回出てくるなど学校経営の指針が明確に表れている。

⇒ 承認

5、学校の状況等について・・・学校長より説明

4月当初2週間は予定通り教育活動を実施、4/15～レッドステージ2への移行、4/25～緊急事態宣言で教育活動が制限されている。4/28の遠足中止。6/2の体育祭を6/22に延期したが、6/20まで緊急事態宣言の再延長により、暑さへ順応するための期間がないことから断腸の思いで中止にした。6/22には学年行事で遠足を実施。6/21～まん延防止措置になっている。制限が多く部活動が思うようにできないことについても懸念している。1年生の仮入部期間が取れなかったことから、1年生の部活動加入率が例年に比べてまだまだ低い。

○進路状況について・・・進路部長から説明

この春に卒業した43期生の進路について説明。

- 会長・・・私立大学は先が不透明な中、各大学が定員の確保に苦勞している2年間であった。今年度も同様の傾向になるのではないか。関関同立をはじめとして進学実績では良い結果が出されている。
- 委員・・・生徒の希望進路を国公立に向かわせるための仕掛けはあるのか。
- 校長・・・国公立に向かわせることだけが目標になっているのではない。安易に進路を決めるのではなく、4年後を見据え、「3年生の最後まで頑張ろう」少なくとも「1月の共通テストまで頑張してほしい」という意図で声をかけている。仕掛けというと、各学年様々な取り組みをしているが、3年生では1年生の時に週末課題として課題を与えた。2年生は「朝学」をしている。昨年度からスタディサプリの活用を実施。これはオンライン予備校のようなもの。これを活用して5教科で苦手教科を作らないようにしてもらいたいと思っている。幅広く学べるのは高校が最後になるので社会に出てから必要となる教養の基礎を身に付けさせたい。

6、教科書採択事務について・・・教頭より説明

⇒ 承認

7、協議

- 会長：教員のワクチン接種を行った際の副反応などの措置はあるのか。
- 事務局：副反応の有無にかかわらず、風邪症状が出ている際には職免として対応。

提言

- 委員・・・感心している。特にICT機器に関して。生徒もしっかりと受け入れている。弁護士界も企業もICT化が進んで、人材も必要としており、国もデジタル化を進めている。生徒も社会に出れば必要になることから、今の段階からこういう授業を積極的に取り組んでいるのは良いこと。また「牧野高校は楽しい」と答える生徒が多いことは素晴らしい。クラブも含めて伝統を守ってほしい。キャリア教育にも肯定的な意見が多い。本日は嬉しく感じた。
- 委員・・・近所で見ているが昨年度からコロナで大変な中、きっちりと成果を出している。先生方と生徒の努力があつてのことであるが、どうすればそのような頑張りが維持できるのか。一人の時間も多くあったはずで、感心して聞いている。生徒たちは塾や予備校にはどの程度行っているのか。
- 校長・・・統計を取っていないが、高校3年生になるとかなり行っているのではないか。中学生の時に通っていた塾や自習室の利用で通っていた塾に行く傾向にある印象だ。塾や予備校に行かなくても、スタディサプリーで予備校と同じかそれ以上の

授業を動画で見ることが出来るシステムになっている。大阪ではスタディサプリーを取り入れている学校は本校を含め数校であるが、ある県では昨年度から県教委がまとめて全県立高校 180 校にスタディサプリーの導入をしている。本校も昨年度から活用している。近隣の府県を見ても進学に熱心な学校は取り入れている。大学受験は全国レベルで競争する必要があることから全国レベルの装備が必要であると考えている。今年度は校内の自習室を整えているところ。

- 委員・・・中高で校種が異なるが、コロナ禍において丁寧な計画をされているので本校にも参考にさせていただく。地元の中学生にとって牧野高校は憧れて通いたい生徒が多く、また行かせたいと考えている保護者が多い。G I G Aスクール構想は枚方市では導入が早くいろいろと大変だったが、1年早く取り掛かっていることもあり、近くでもあるので情報提供できるようなことがあれば、お互いの学校のために協力させていただく。
- 委員・・・塾に通う生徒は多いように聞いている。学校においては、図書室が朝早くから自習室として開放してもらうなど体制作りがありがたい。生徒は学校が楽しいと言っている。P T Aの役員のなかでも親子2世代で牧野高校生という人が多い。コロナの影響で生徒たちが戸惑うことなどはなかったのか。
- 校長・・・感染者が多く出ると大変だと思う。昨年度のように夏休みが1週間しかないなどになると生徒は混乱すると思うが、本校ではコロナに係る学校休業をできるだけ短くできるように努めている。4月以降で感染者は2度出たが、学校休業は結局1日だけで済んでいる。
- 委員・・・コロナやG I G A構想など大変だが先生方の働き方改革に関して、先生方の超過勤務が保護者として気になる場所。少なく出来れば良いと感じており、P T Aとして新しい体制が出来たので、何かご支援できることがあればどんどん協力したい。
- 会長・・・一番ショックだったのが部活動入部率の低いところ。部活動に入っていない子どもたちの時間やエネルギーがどこに使われるかが問題。クラブに入る機会を設けていただければ興味を示す生徒もいると考えられる。もう一つは、来年度から学習指導要領の変更に伴い、教育方法やI C Tをはじめとして大きく変わっていくところであるが、文科省が求める観点別評価が徹底されてくるので、総括的な評価では対応できない。カリキュラムのマネジメントと新たな評価への対応を期待したい。

8、連絡

第2回の協議会は12月上旬、第3回の協議会は2月上旬で予定。

⇒ 了承

9、閉会

学校長よりお礼